

島根大学のタティ(おとうさん)を応援するニュースレター

シマタティ

島根大学男女共同参画推進室

職場で学ぶライフマネジメント講座を実施しました！



平成28年7月の学長・理事によるイクボス宣言を具現化すべく、その一環として、平成28年12月7日に島根県と(財)しまね女性センターとの共催で、課長補佐級の一般職員を対象に「職場で学ぶライフマネジメント講座」を実施しました。

講師には、ワークライフバランスやイクボスを提唱・推進しているNPO法人ファザーリング・ジャパンの安藤哲也代表をお招きし、「安藤哲也流・イクボス仕事術～人も組織も輝くための業務改善マネジメント」と題した講義をしていただきました。

イクボス宣言する企業や自治体が増えている背景には、育児や介護による離職の防止や、契約社員等の雇用形態の多様化、高齢、病気等の諸事情で働き方が限定される制約社員の増加があり、「男女問わず全て」の労働者の生活事情全般への理解を示す「イクボス」が重要になってきた、との説明がありました。

そして、働き方を変えるにあたってのポイントとして、すべての社員のための制度とすること、多様なライフスタイルを尊重すること、時間に対するコスト感覚を持つことなどが挙げられ、イクボス10カ条のほか、上司としての心得として、「自分でやる」覚悟、「やらない

事を決める」覚悟、「ヒマになる」覚悟、「部下に任せる」覚悟、「意思決定する」覚悟などについてお話がありました。

また、具体的な業務改善策として、会議は回数、時間、人数を半分にし、資料は事前配布で読んできたことを前提に説明時間を省略。メールは短く、明確に、結論を先にし、宛先・CCは最小限に、長文になるようなら電話か面談にするなど削減に努める。組織内の資料はより簡略化し、「手戻り」と「やり過ぎ」を避けるため事前に上司と「骨組み」を合意する。担当者→係長→課長→部長→役員→社長というような階層的な決裁は、いくつかまとめて回数を減らす、などの紹介がありました。

このほか、イクボス式マネジメントの実現のポイントとして、チームメンバーのある程度のライフ(子育て・介護等)情報を把握することや、チームメンバー間のライフ状況の共有、信頼関係の構築、そのためにコミュニケーションをとること等についてお話がありました。

参加者からは「有意義だった」「自分自身の意識が変わった。」等の感想が寄せられました。

イクボス10カ条

理解
ダイバーシティ
知識
組織浸透
配慮
業務改善
時間捻出
提言
有言実行
隼より始めよ

※安藤哲也氏講義資料より

働き方を見直そう

毎月1回昼休みにワークライフバランスや男女共同参画について意見交換等を行う「さぼっとカフェ」で、教職員の皆様から具体的な働き方改革の方策について、ご意見やご提案をいただきました。その一部を紹介します。

ご意見・ご提案

- ・プレゼン用スライドや開催通知等の一般的な文書の全学共通のテンプレートやひな型を作成し共有。
- ・一部の会議で実施されているタブレット会議を広める。
- ・原則17時以降に会議を開催しない。
- ・17時以降に依頼や問い合わせのメール・電話をしない。
- ・17時以降に来たメールや電話は翌日以降に対応。
- ・メールが多すぎて確認に時間をとられるので重要な事はメールではなく、学内HP等に重要事項の掲載場所を作り、そこにアクセスするようにする。
- ・メールは、件名だけで内容や締切が分かるようにする。

ご提案いただいたものにはすぐに実行できるものもあると思います。教職員一人一人が意識して働く環境の改善に努めていただけたらと思います。

また、男女共同参画推進室も業務改善策のひとつとして、学内おもてなしメールの廃止を提案しています。具体的には、学内の教職員間におけるメールでは、冒頭につける過度な肩書きや長々しい挨拶文を省略し、少しでもメールに費やす時間を減らそうというものです。皆様、ぜひ導入をご検討ください。



めざそう！ スマートメール

(簡潔、的確、最小限)

考えよう！ スマート業務

(伝達、チームワーク、ワークライフバランス)

笑顔あふれる島根大学へ！

第4回：松浦晃幸理事に聞く「一人一人を活かすために」

事務のプロフェッショナルである松浦理事に、大学経営・財務担当のお立場から、大学における働き方改革やワークライフバランスについてお話を伺いました。 [インタビュー：河野 美江 学長特別補佐(男女共同参画担当)，岩瀬 峰代 男女共同参画推進室員]

質問1：理事のワークについて教えてください

生まれは奥出雲町三成で、昭和54年4月に旧島根医科大学に入職後、文部省に転任、文部科学省で長く仕事をしました。九州大学退職の後、平成27年4月に本学理事となりました。

全国の幼・小・中・高等学校の子どもたちの教育施策の企画・立案等に携わっていた年数が最も長く、教育の機会均等と質保証のために主に財務の方面で尽力してきました。初等中等教育においても高等教育においても「教育」充実のために財務的に支援するという姿勢は変わりません。大学の仕事は合わせて約8年程度ですが、大学の機能強化を推進するために、教育・研究プロジェクトの推進、事務系職員の組織見直し、安全、安心なキャンパス整備などに関わっています。



質問2：育児・介護中であっても仕事が続けていけるように、働き方改革をどのように進めていけばよいとお考えですか？



松江は落ち着いた城下町で、人も粘り強く真面目な方が多いです。一方で新しいものに取り組むことに躊躇しているようにも思います。教職員・学生に対しても同じように感じることがあります。

今後、大学が生き残るために、特色を活かしてオンリーワンでやっていく必要があります。そのためには、大学に関わる一人一人がもっとイキイキとチャレンジすることが大切だと思っています。大学本部としては、育児や介護にかかわる制度の整備や、教育・研究助成など大学で可能な支援はどんどんやっていきたいと考えています。そのことによって若手・女性・外国人研究者を更に活かすことができるのではないかと考えています。

実は私は文部科学省では毎日日付が変わってから帰るような生活をしていました。子育ても妻に任せきりで、振り返ると、家族とふれ合う時間が少なくて、とてももったいなかったと思います。ですから、若い人たちには「ずっと残って仕事するのが美德」という意識を捨てて、早く家に帰って家族とのふれ合いや趣味の時間を持つなどして欲しい。そのためにも仕事の目標やスケジュールを共有したり、工夫をしたりして無駄を減らすように考えて欲しいと思っています。リーダーが早く決断することも大事です。これこそイクボスですね。教職員の皆さんは、遠慮せずどんどんアイデアを出して下さい。

質問3：ライフ(ご趣味)についてお聞かせください

仕事はうまくいくことばかりではありません。時には一人で無になることが大切で、私は溪流釣りに行きます。奥出雲によく釣れるところがあり(場所は秘密です)、うっそうと生い茂った山で川に入り、釣り糸を操っていると何もかも忘れますね。忙しくて年に数回しか行けませんが。



マル秘溪流釣りスポット



釣った岩魚 約20cm

あとは、映画が好きです。DVDも沢山持っていますし、妻とも映画を見に行きます。最近では新海誠監督の「君の名は。」を見ました。良かったですよ。

プレミアムこころカンパニー表彰を受賞しました！

この度、島根県知事から平成28年度プレミアムこころカンパニー表彰を受けました。この表彰は、島根県が仕事と家庭の両立支援をより進めるため、「しまね子育て応援企業(こころカンパニー)」に認定されている企業の中から、認定時の審査項目と育児休業や年次有給休暇の取得率、時間外労働の状況などの実績を合わせ、特に優れている企業を「プレミアムこころカンパニー」として表彰するものです。



受賞にともない、プレミアムこころカンパニーのロゴを交付されました。ホームページや広報誌、各種パンフレット、名刺等への印刷等に活用し、対外的にアピールしていきたいと考えています。ロゴは教職員向け情報サイト ArcWizShare に掲載していますのでぜひご活用下さい。 [掲載場所：01教職員向け情報>01お知らせ>人事労務課からのお知らせ]

編集後記

今回は、難しいと思えているハードルも意外と飛び越えられることもあるかもしれないと思えるお話を聞くことができ、対話することの大切さを改めて感じました。皆さんも感じたことをお知らせください。一緒に考える機会にしたいと思っています。

男女共同参画推進室室員 岩瀬 峰代

島根大学男女共同参画推進室
〒690-8504
島根県松江市西川津町1060番地
Mail: kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp
HP: <http://gender.shimane-u.ac.jp>



「シマダディ」や「働き方改革」に対するご意見やアイデアをお寄せ下さい。みなさまからのご意見やアイデアを集約し、イクメン・イクボス アイデア集として誰でもアクセスできるようにしていきます。

シマダディ特設サイト: <http://gender.shimane-u.ac.jp/docs/index.php/doc3/newsletter>